

傳大八
後日譚



二編下

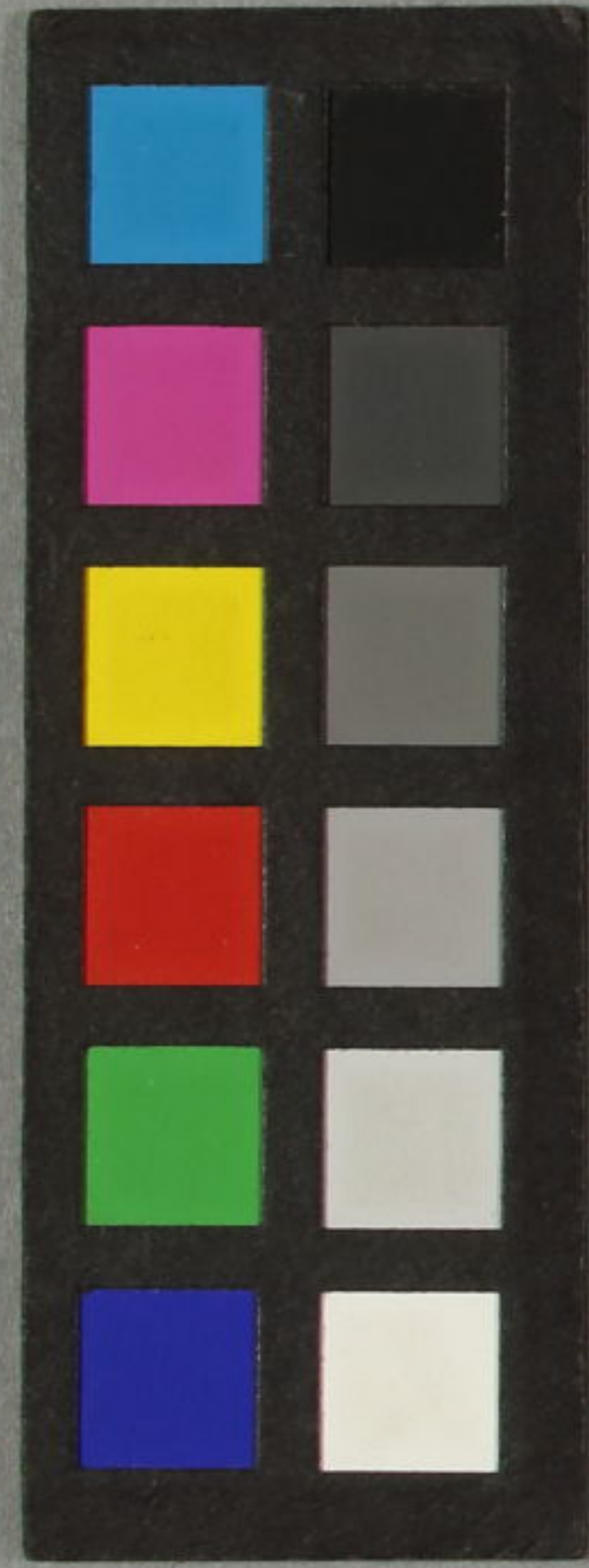
^13
3663
4

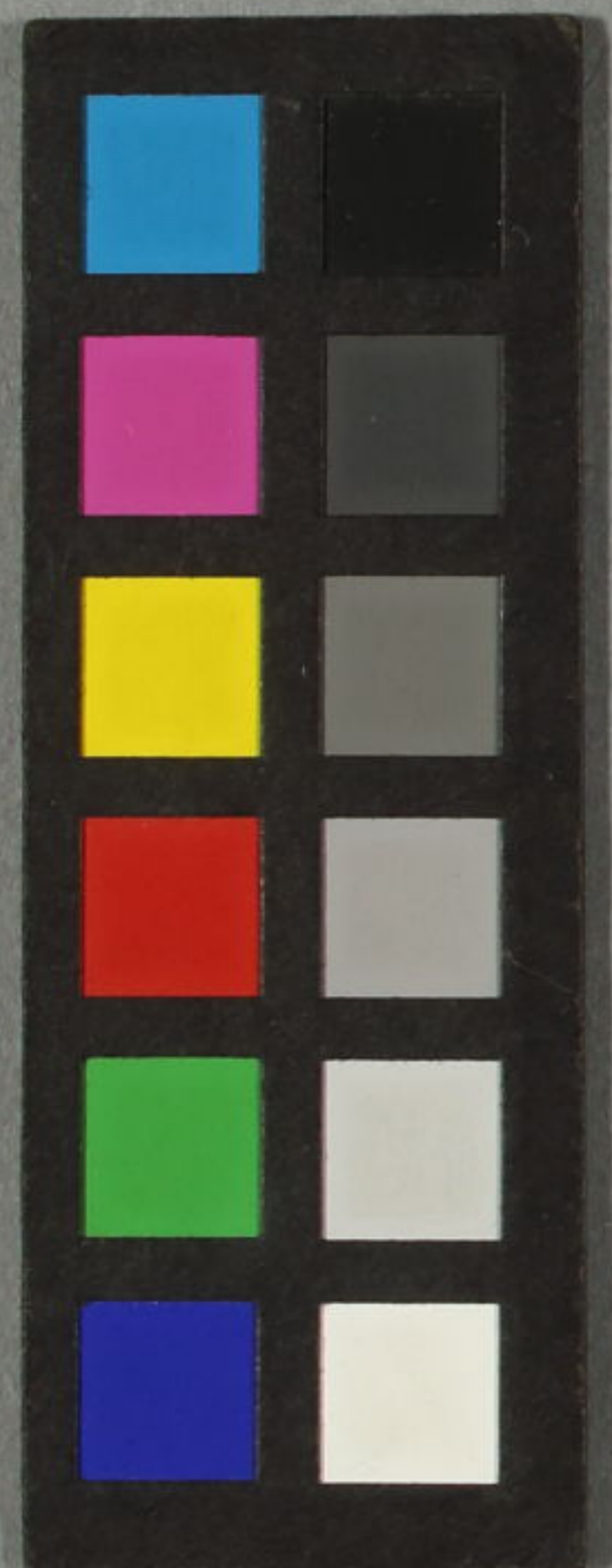
爲永春水作
一勇齋國芳画



二編上

^13
3663
3





爲永春水作
一勇齋國芳画

二編上

^13
3663
3



麓路包が系圖

坂田米良平 神餘の臣

玉梓 光弘の妾後起色の事とある

波佐松 後三下路越三と改む

木辛が系圖

山下定包 原傳ふト三述六の類

葛八 扁谷家小仕

木辛

米良七 始素藤小仕後千葉小仕

麓路包



犬傳後日譚 二篇 上冊

國芳画

美水化

拵

山本

年古

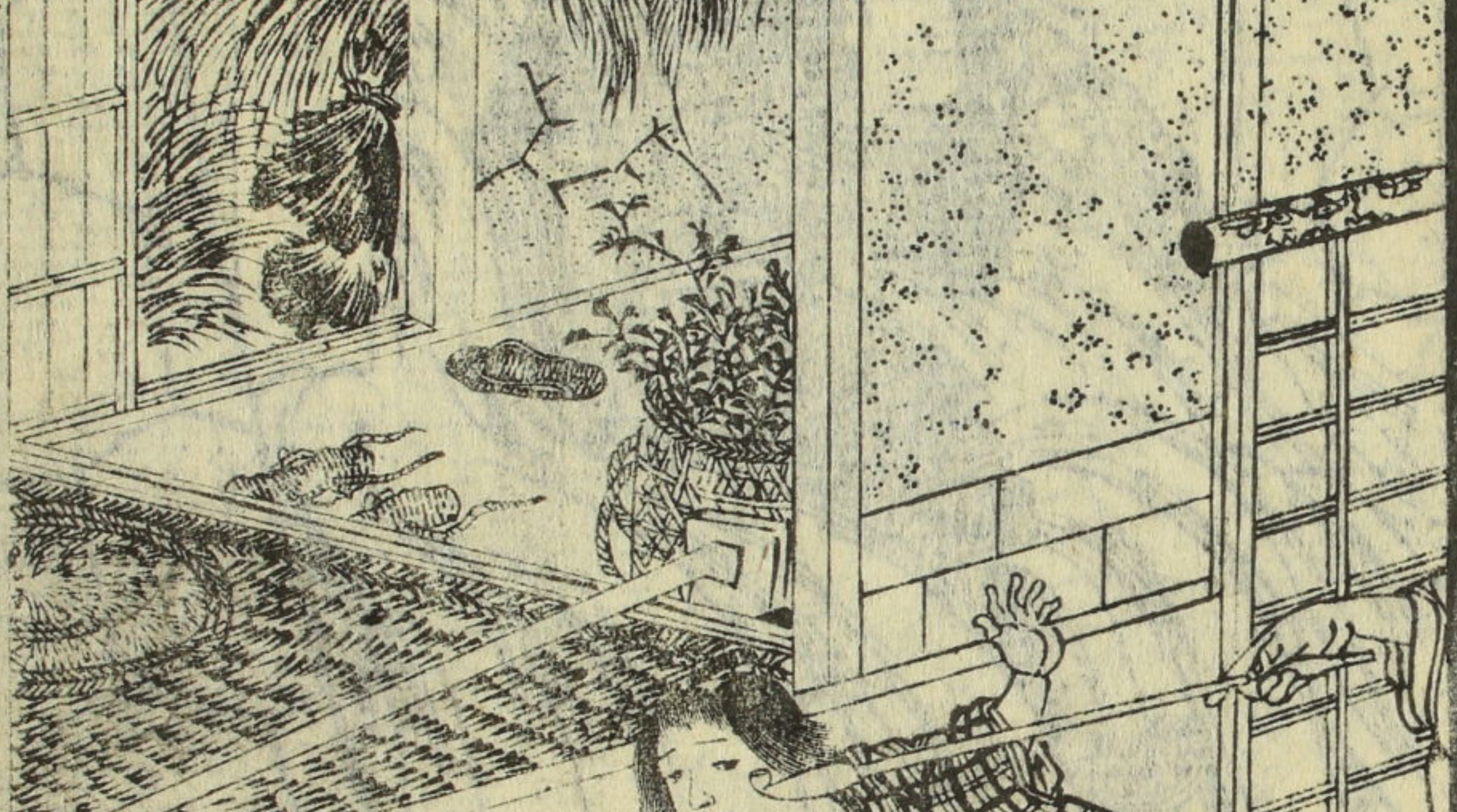
腐草の化して螢となり。暮暮露の饒饒とるれ。半可通る生博士の作者と化せとも化して多。那暮暮積のぬらうと。机小筆のさくらまれとも螢の尻やと光す。もふと生涯腐草の中に歟と。大道列衣の蒲焼夫も芳に名ある。これとも尚。後。硯小。書。墨。二卷の戲墨とあり。犬傳小追局。即後日譚と題せし。書肆栄久堂と受得て。鮎梓小上せ。更。続輯を促。性急。虚日。仍て今復二編を終。了。然。此。造策子の咸前傳の送。拾ひ。甲と乙の楔子と。丙と丁の照對。これ。僅小豹の一斑とも。故翁。曲亭子の本意。不。愧。又。不。つ。る。念。の。半。身。猫。と。る。れ。も。実。傳。の。わ。け。り。よ。一。笑。を。免。賜。ひ。ね。り。

嘉永六癸丑歳 孟春吉且新鑄

為永春水記焉



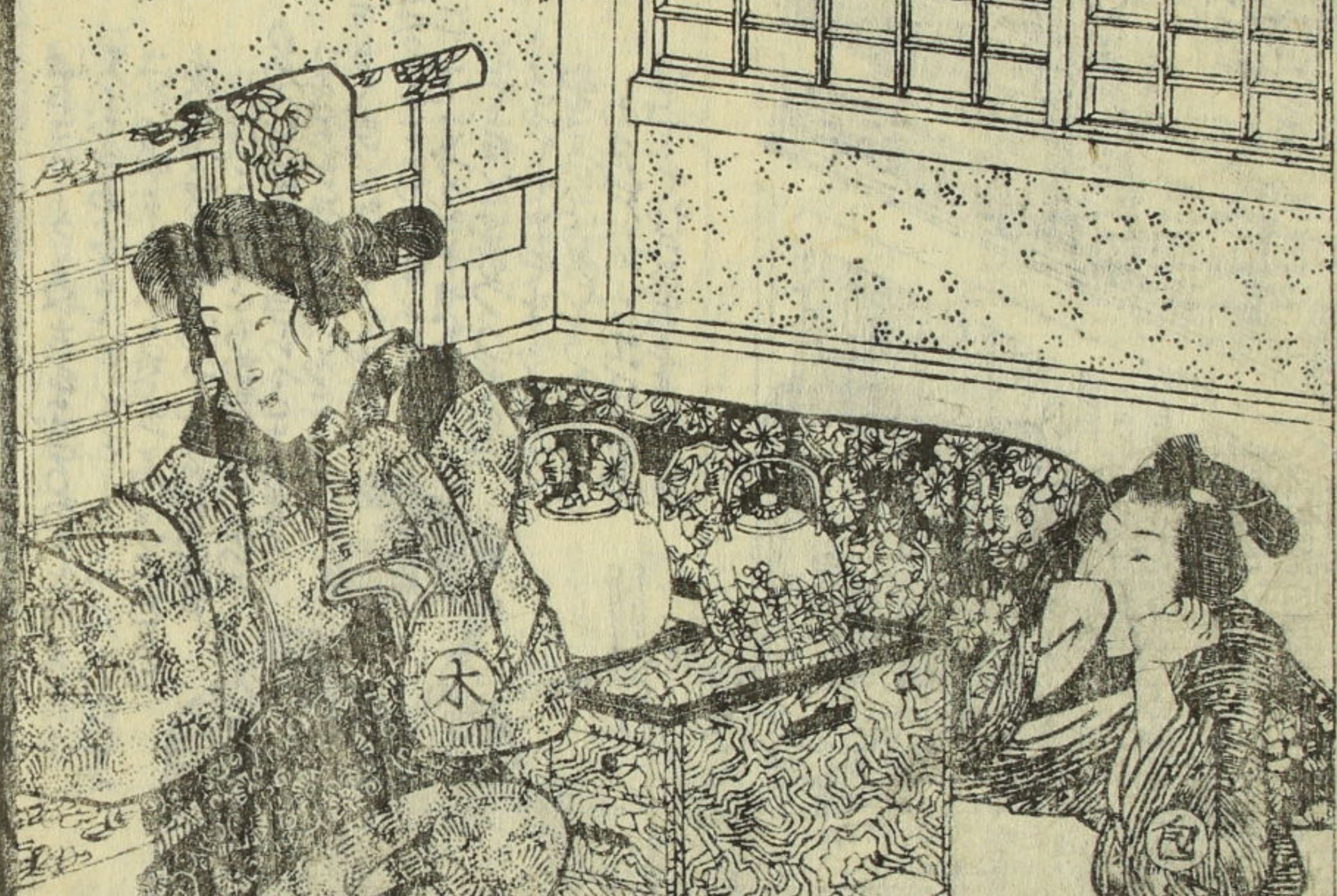
ちのいどうをうけか
 へちまをうけか
 ぶち包がたぶち
 ようにたて
 人あれをまあひ
 あひがしに
 るをもまきたらま
 おあごまがま
 日包よりふたをた
 けいむもあごま
 けいむもあごま



ちのいどうをうけか
 へちまをうけか
 ぶち包がたぶち
 ようにたて
 人あれをまあひ
 あひがしに
 るをもまきたらま
 おあごまがま
 日包よりふたをた
 けいむもあごま
 けいむもあごま

下巻

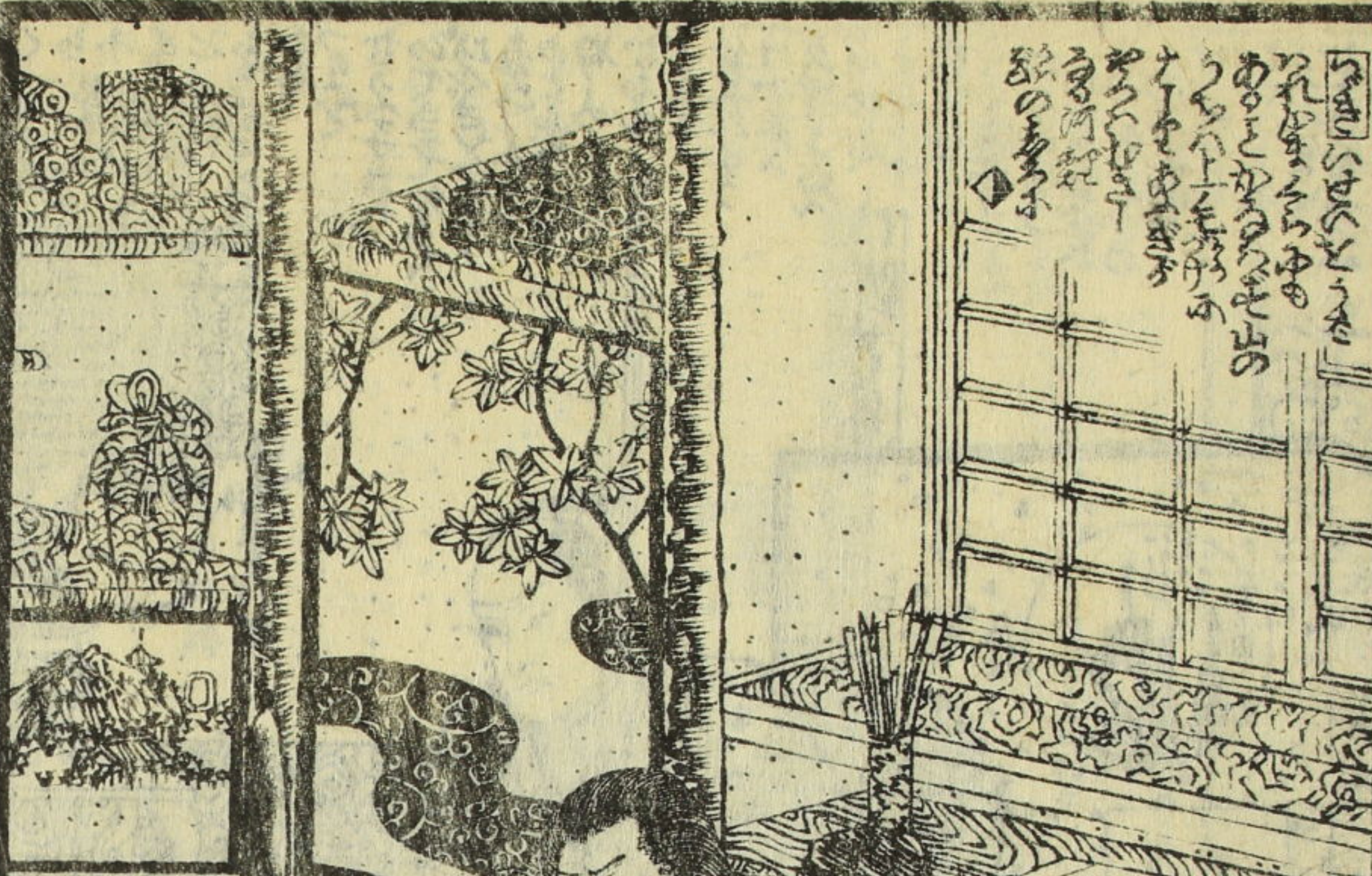
ちのいどうをうけか
 へちまをうけか
 ぶち包がたぶち
 ようにたて
 人あれをまあひ
 あひがしに
 るをもまきたらま
 おあごまがま
 日包よりふたをた
 けいむもあごま
 けいむもあごま



ちのいどうをうけか
 へちまをうけか
 ぶち包がたぶち
 ようにたて
 人あれをまあひ
 あひがしに
 るをもまきたらま
 おあごまがま
 日包よりふたをた
 けいむもあごま
 けいむもあごま

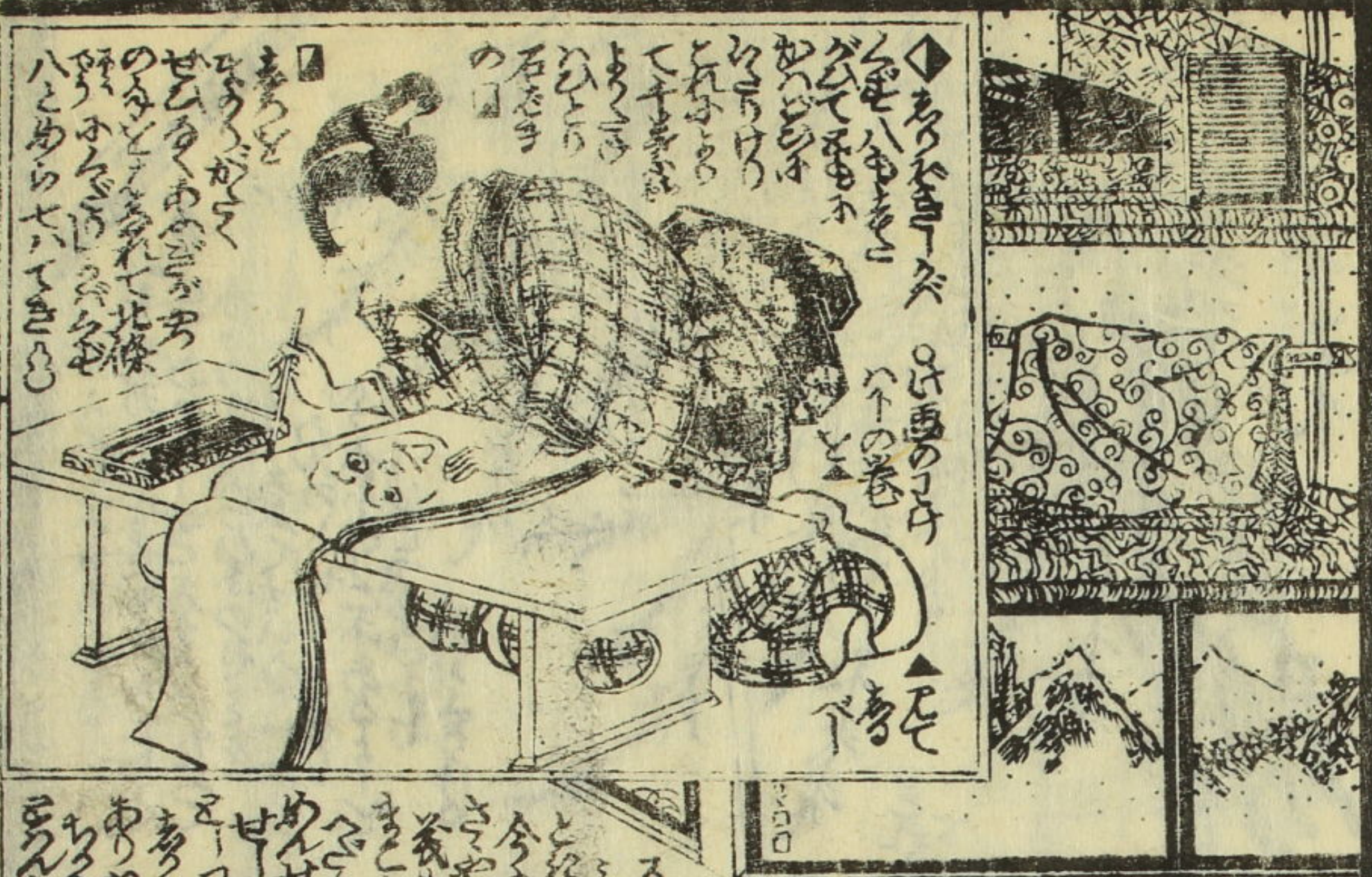
下巻

これぞ我が世の
うらやまの
たけなほ



この世の
うらやま
たけなほ
の
あつた
まは
る
の
あつた
まは

この世の
うらやま
たけなほ
の
あつた
まは
る
の
あつた
まは



この世の
うらやま
たけなほ
の
あつた
まは
る
の
あつた
まは

この世の
うらやま
たけなほ
の
あつた
まは
る
の
あつた
まは

榮久堂刊行藏板略目

三都妖婦傳

笠原 仙果作 中本袋入
陽齋 豊國画 二編出板
三編四編未刻

源氏五十四帖

極彩色
錦繪

右の源氏物語の五十四帖を、極彩色の錦繪で描いた。源氏物語の物語を、極彩色の錦繪で描いた。源氏物語の物語を、極彩色の錦繪で描いた。

永花百人一首文十物

首書絵抄

永花百人一首文十物。首書絵抄。永花百人一首文十物。首書絵抄。永花百人一首文十物。首書絵抄。

國芳画春水作



春水作の國芳画。春水作の國芳画。春水作の國芳画。春水作の國芳画。春水作の國芳画。

御詠深逢山鹿子

六編揃

御詠深逢山鹿子。御詠深逢山鹿子。御詠深逢山鹿子。御詠深逢山鹿子。御詠深逢山鹿子。

菊壽堂霞盃

京山翁作
十編揃

臆月猫の草紙

京山翁作
七編揃

地本草紙問屋

江戸町おやぢ橋角
山本平吉梓

禮



仁

智



義

信

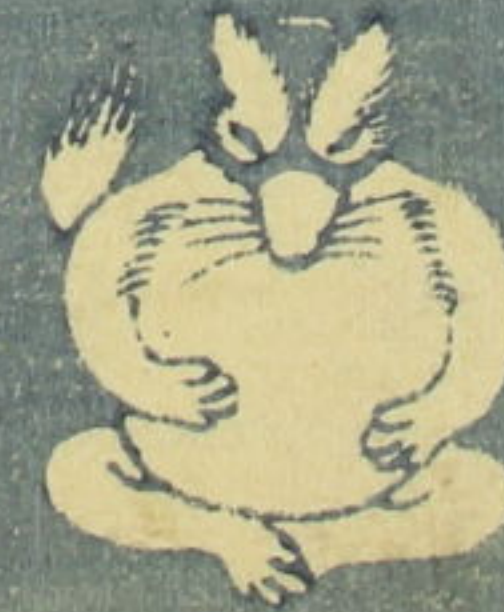
信

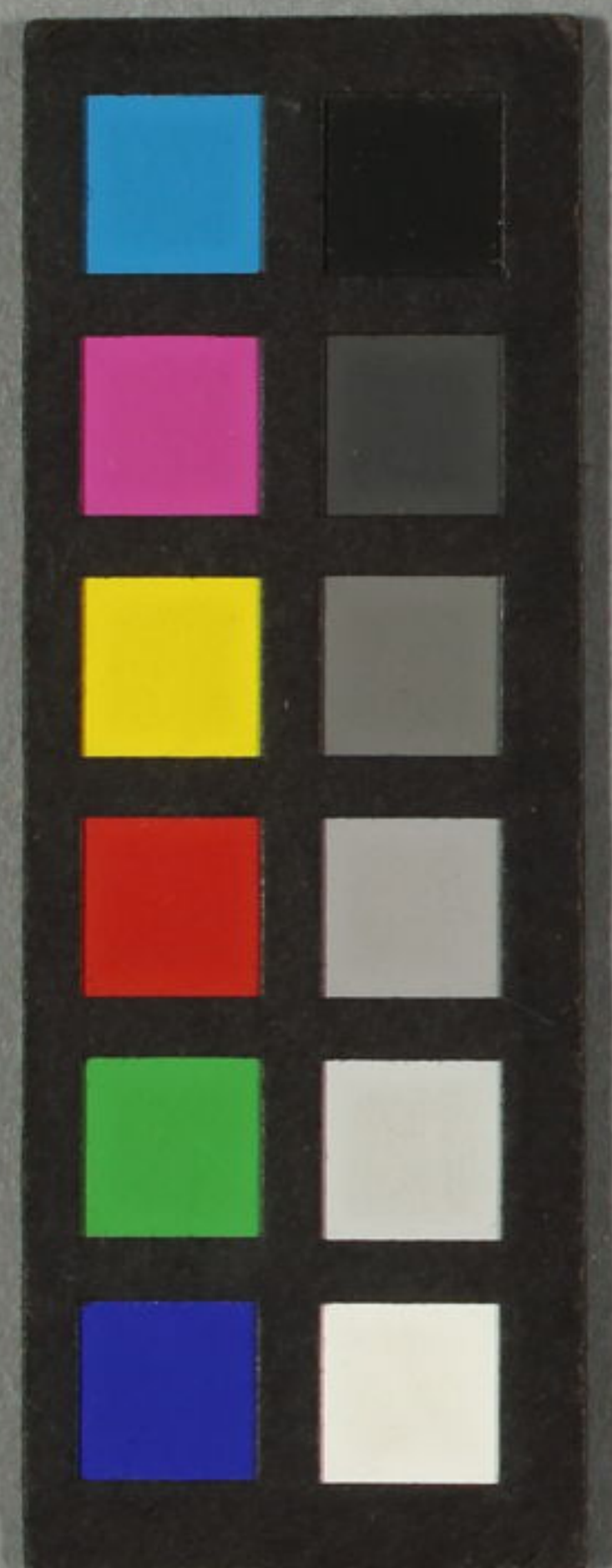


孝

忠

悌





^13
3663
4

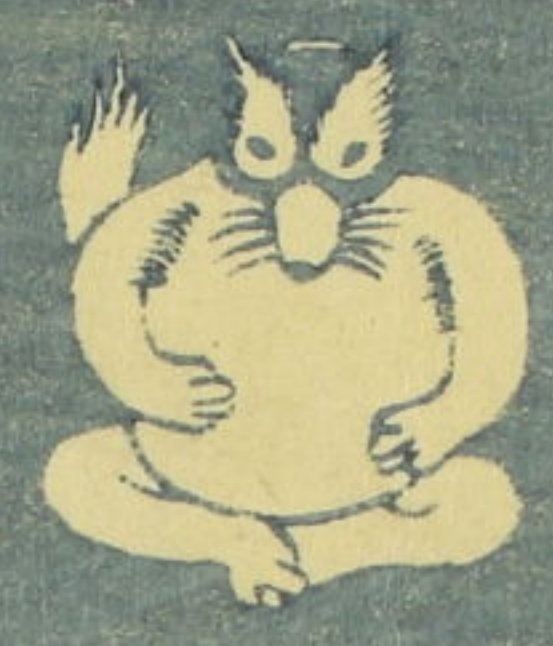


仁



禮

智



勇

義

忠

孝



信



悌

